



月刊

社協だより

平成30年
8月号



発行：狩留家地区社会福祉協議会 編集：広報部
広島市安佐北区狩留家町3144番地 TEL：844-0826

狩留家ボランティアセンター を開設して

七月六日の西日本豪雨の後処理の為、狩留家ボランティアセンターを七月八日に立ち上げ、一ヵ月後の八月十一日に一旦閉鎖をしました。

開設した翌日にはボランティアグッズを持参して二人の若い防災士の男女が現れました。助成物資を大量に荷降ろしして「私たちが応援しよう」と即断即決！

二人のネットワークで、数多くの情報と物資がどんどん届きました。二人のリードで、狩留家集会所をフルに使った狩留家ボランティアセンターを開業出来ました。



私がボランティアセンターを運営して感じたことを書き留めてみます。

一、ボランティアを待ち望んでいる「ニーズの規模」と「件数」と「タイミング」のデータ化と見える化が、また「着手状況」や「日々残存するニーズ量」、「新しく発生するニーズ量」そして「ボランティア供給予測量」等の見える化が出来ておればボランティアセンターの運営が楽であったと思えました。

二、ボランティア募集については、SNS情報と安佐北区ボランティアセンターの情報でボランティアに来てくれる人の量が規定されるのでSNSの技術を向上させる必要性を痛感しました。

三、センター立上げ当初は、口田からボランティアの方を大量にまわして頂き、大変助かりました。改めて私は、近隣地域の応援を得ながら相互に存立し合うことの大切さを実感しました。



西日本豪雨災害見舞い品

災害見舞い品：健康飲料、うちわ
会社名：アルソワ プール シェル (竹本 伸様)
お名前：石田 豪様
有難う御座います。ボランティアさんの為に利用させて頂きました。

四、センターを運営する私達は、ボランティアさん達の多くが、過酷な活動を終えてセンターに戻って来られたにもかかわらず「おれはやつてきたぞ！」という自己達成感に満ちた清々しい表情をされていることに励まされました。又お帰りの際には「本日は有難うございました」とご挨拶される方もあり、私達は有難さで胸が一杯になりました。

理事会報告

平成三十年八月二十一日

- 一、豪雨災害見舞金について
- 二、配食について(十月四日)
- 三、敬老祝賀会について(九月十七日)
- 四、狩小川フェスタについて(十月二十八日)

五、狩留家の小学生や中学生もボランティアとして参加してくれました。一人で十日以上も参加してくれた女子中学生も居ます。狩留家の小・中学生万歳です。この様に狩留家の若者が協力して頂ければ、未来の狩留家の

発展は盤石です。ボランティアさんは東は東京・埼玉、西は熊本・長崎等から自費で馳せ参じて居られます。このボランティアスピリットに感謝、感激です。
(会長記)

平和のつとめ

今年、被爆七十三年目にあたります。七月の豪雨災害で小学校の河原の慰霊碑やタブの木の様子を心配しましたが、無事だったようでした。八月三日小学校の体育館にて「平和のつどい」が行われ小学校の児童と共に保護者の方、地域の皆様そして社協の関係者が参加しました。

初めに小学校の校長先生の話、児童代表による

平和への思いを綴った作文の発表、児童たちの心に響く「ねがい」の歌声を聞きました。最後に各サロン、小学校、保育園で平和であるように願いを込めて折った千羽鶴を捧げたり献花もありました。

原爆体験された方が少なくなる中、体験した方だけでなく、体験しなかつた方への思いを何かの方法で伝えていく大切さを感じています。

七月資源二品売上 一万四千円